

インターフェロンの種類と注意点

副作用への対応について

大阪市立大学医学部附属病院 薬剤部

インターフェロンの種類

週1回注射 (C型肝炎のみ)

ペグイントロン+レベトール (内服)

ペガシス+ (コペガス (内服))

週数回注射

スミフェロン

オーアイエフ

イントロンA

など多数

ペグインターフェロン+リバビリン 併用療法について

レベトール



ペグイントロンと一緒に
使用します。

コペガス



ペガシスと一緒に使用する
場合があります。

どちらも同じ成分のお薬です
(リバビリン)

リバビリンの薬効と注意点



★インターフェロンの作用を増強する内服薬です。
リバビリンだけではウイルスは除去できません。

★飲み忘れ・飲み間違いには注意！
(治療途中で服用量を変更することもあります)

リバビリンの薬効と注意点



★胎児の奇形を引き起こす報告がありますので
パートナーの方と共に服用終了後6ヶ月までは
必ず避妊をしてください。

インターフェロン治療中の注意点



多メーカーから発売されており
デザインは異なる場合があります。

◆小柴胡湯と同時期の服
用 (使用) はできません。
肺炎や精神症状の副作
用が強く出てしまうこと
があります。

◆ほかの漢方薬の服用を
希望の場合も、主治医
に確認してからにしてく
ださい。

インターフェロンの副作用について

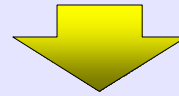
まず！

- ★副作用の発現の程度には個人差があります
- ★副作用の兆候を見つけ、
早めの対応で症状の軽減を目指しましょう！
- ★いつもと違う症状が見られたときは
必ず主治医に報告しましょう

初期症状（初回～数回目）

★インフルエンザ様症状

発熱・悪寒・頭痛・関節痛・全身倦怠感など



解熱鎮痛剤で症状の緩和が出来ます。
症状がひどくなる前に投与することで、
体の不調が軽減されます。
治療をしながらご自身にはどのような症状が出やすいのか
見つけていきましょう。

発熱・疼痛時に使用するお薬

飲み薬



坐薬



どちらのお薬も同じ効果のあるお薬です
1日に複数回使用時は、使用間隔を6～8時間あけましょう

発熱・疼痛時に使用するお薬

飲み薬

ロキソニン



解熱鎮痛剤

ムコスタ



胃粘膜保護剤

(解熱鎮痛薬の胃腸障害を軽減します。)

服用後30分～1時間くらいで効果が現れてきます。

1日に複数回使用時は、使用間隔を6～8時間あけましょう。

発熱・疼痛時に使用するお薬

坐薬

ボルタレンサボ



◆使用後10～15分くらいで
効果が現れてきます。

◆手を洗ってから開封後
肛門に挿入して、20～30分
安静にしてください。

1日に複数回使用時は、使用間隔を6～8時間あけましょう。

★食欲不振・吐き気等の消化器症状

ご自身の食べやすいもの、匂いのきつくないものなど
食べられるものから食べて様子を見ていきましょ
う。水分補給も忘れずに！(食べられない日が続く
うであれば主治医に相談を！)



★発疹・かゆみ

注射部位が赤くなったり、全く違う場所に皮疹がでることがあります。塗り薬・飲み薬による対応ができます。



★心臓の症状

動悸・息切れ・胸の痛みなどが見られることがあります。症状があればすぐに主治医に連絡をして下さい。



★糖尿病の悪化

糖尿病を悪化させることがあります。喉が渇く・体重が減るなどの症状が見られます。

★目の症状(網膜症)

ものが見えにくい・目がチカチカする・目が痛い等の症状があります。当院では定期的な眼科受診をすすめています。眼科の受診は主治医と相談していきましょう。定期的な眼科受診が大切です。

中期症状(2～12週目)

以下のような症状があれば早急に主治医に報告をして対応をしてください。

★不眠・不安・うつなどの精神症状



寝つけなかったり、目が覚めてしまう、気分が落ち込んだり、いらいらしたりすることがあります。

いつもと違う気分や睡眠が気になるようであれば、
主治医に報告しましょう！

★間質性肺炎



息切れがする・乾いた咳が続く・微熱がある等の症状がでることがあります。

★甲状腺機能障害

甲状腺の機能を亢進または低下させ、動悸・汗をかきやすいむくみ・身体がだるいなどの症状が見られます。血液検査で定期的にチェックをしています。



★脱毛

治療から2ヶ月経過ごろから脱毛が見られることがあります。治療が終了後しばらくすると元に戻ってきます。



治療期間中

★検査値異常

☆貧血(ヘモグロビン減少)

リバビリンが赤血球中に貯まっていくことが原因といわれています。
めまい・立ちくらみ・息切れなどの症状が見られることがあります。



☆白血球・好中球減少

免疫力に関係する成分ですが、治療によって少なくなってしまうことがあります。

感染予防(うがい・手洗い・マスク等)を心掛けましょう。



☆血小板減少

止血に重要な役割を果たしている成分です。
少なくなると出血部から血が止まりにくくなったり、
鼻血が出やすくなったり青あざが出来やすくなったりします。

日常行う作業であっても十分注意してください。

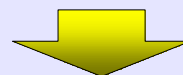


☆貧血(ヘモグロビン減少)

☆白血球・好中球減少

☆血小板減少

これらの数値が一定量以上少なくなりすぎると、



注射・内服の減量・中止をすることがあります。



まとめ

様々な副作用の可能性があります、ご自身で気付かれる症状に対しては、タイミングを取って早めの対応をすることで、症状の軽減が十分可能です。

日々のご自身の体調について
まめにチェックをしていきましょう。

いつもと違う症状が何かあれば、
我慢せずに必ず主治医に報告をして下さい。